



7階 第2研修室B 資料



スケジュール・案内／概要

- 12:30 ワークショップ 電話相談事業研究開発委員会
『**こころをつなぐ安心電話**』 62
- 13:30 パネルディスカッション 子ども家庭支援委員会
『**子ども家庭領域における当事者から求められているソーシャルワーク機能は何か～社会福祉士が担うソーシャルワーク機能の拡張～**』
..... 63
- 15:00 終了

実践研究大会2017ワークショップ

こころをつなぐ

安心電話

東京社会福祉士会 電話相談事業研究開発委員会



時間：12時30分～13時20分

場所：第2研修室B

プログラム内容

安心電話紹介	10分	安心電話は、形態を変えつつも20年目の節目を迎えます。過去から現在までの安心電話をご紹介します。
安心電話事例紹介	10分	日々、電話を掛けてくる利用者の特徴的なようすを、プライバシーに配慮しながらご紹介します。
電話相談ロールプレイ体験	20分	電話相談の実際をより深く理解していただけますよう、希望者にロールプレイを体験していただきます。
電話相談のヒント	10分	他の相談にもいかすことができるようなヒントを、特別にお話しします。この場に来なければ聴くことができません。

子ども家庭支援委員会実践発表&パネルディスカッション

「子ども家庭領域における当事者から求められているソーシャルワーク

機能は何か～社会福祉士が担うソーシャルワーク機能の拡張～」

・問題の背景

子ども家庭支援分野ではスクールソーシャルワーカー、家庭支援専門相談員、母子支援員、引きこもり支援コーディネーター等社会福祉士が任用される実践領域は拡大している。さらに「地域共生社会の実現」においてはソーシャルワーカーの活用が推進され、社会福祉士に対する期待も高まっている。一方、「地域共生社会の実現」という政策からの要請は、政策を実現・維持するための実践となり、政策提言、改善という社会変革に関わるソーシャルワークは縮小化される危機に面している。すなわち学校教育の矛盾、貧困、排除など社会構造、社会システムの不具合に対する川上対策がなければ川下対策も意味をなさない。

当パネルディスカッションでは、住民の主体的活動による子どもの居場所づくり、里親活動、学習支援事業について実践報告を行う。さらにこれらの実践におけるソーシャルワーク機能と「地域共生社会の実現」におけるソーシャルワーク機能の違いについて検討を行う。

当事者から求められるソーシャルワークとは住民、養育者、ボランティアとして生活を共にする共同者、貧困問題解決に向かう住民参加の促進者という機能を持ち、市民の意識変革を促す活動が、当事者から求められるソーシャルワークではないかと問う。社会福祉士は自らその機能を拡大していこうとする実践を伝え普遍化させ、さらなる課題提起を行う。

・発表者

福本麻紀（おひさまネットワーク代表）

フクモト社会福祉士事務所代表 平成26年から清瀬市において子どもの居場所を展開してきた。現在市内5か所において子どもの居場所、子ども食堂、学習会を運営。市内他団体と子ども食堂連絡会の組織化を行っている。平成29年度清瀬市地域福祉計画策定委員。

澁谷泉（東京都養育家庭登録里親）

新宿区拠点相談所「とまりぎ」非常勤相談員として生活困窮業務に従事する一方、10年間里親実践を行う。里親会にも参画し現状の里親に加え専門職の里親の必要性を訴えている。里親には家庭復帰までの育ちの保障の認識と措置解除の時に社会資源を探してつなげる技術、すなわちソーシャルワークが必要だと主張する。

指川和恵（狛江市自立相談事業こまYELL）

平成28年より東京社会福祉士会は狛江市学習支援事業を受託する。当初より訪問型、ボランティア型の学習支援を実施し、全国より注目される。学校、フードバンクとも連携が進み、利用者、ボランティアも増加している。ボランティアが単なる住民参加のレベルから子ども代弁的機能を果たす事例もでてきており、制度が求める以上の機能に拡大できるのか、今後の展開が期待されている。

- ・各パネラーから実践報告
- ・パネルディスカッション